

JAバンク栃木における地域密着型金融の取組状況（2018 年度）

JAバンク栃木（栃木県下JAと農林中央金庫宇都宮支店）では、農業と地域社会に貢献するため、JAバンク栃木中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

この度、2018年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援

（JAバンク栃木の農業メインバンク機能強化への取組み）

JAバンク栃木は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク栃木は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2019年3月末時点のJAバンク栃木の農業関係資金残高^(注1)は37,107百万円（うち農業経営向け貸付金17,052百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は7,006百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金残高とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンク栃木が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業関係資金残高】（単位：百万円）

	2019年3月末現在
農業	22,326
穀作	5,279
野菜・園芸	4,742
果樹・樹園農業	1,108
工芸作物	36
養豚・肉牛・酪農	5,867
養鶏・鶏卵	18
養蚕	1
その他農業（注1）	5,274
農業関連団体等（注2）	14,781
合計（注3）	37,107

(注1) 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

(注2) 「農業関連団体等」には、JAや全農とその子会社等が含まれています。

(注3) 小数点以下を四捨五入しております。

【資金種別別農業関係資金残高】 (単位：百万円)

種 類	2019年3月末現在
プロパー資金 (注1)	31,444
農業制度資金 (注2)	5,663
農業近代化資金	4,229
その他制度資金 (注3)	1,434
合 計	37,107

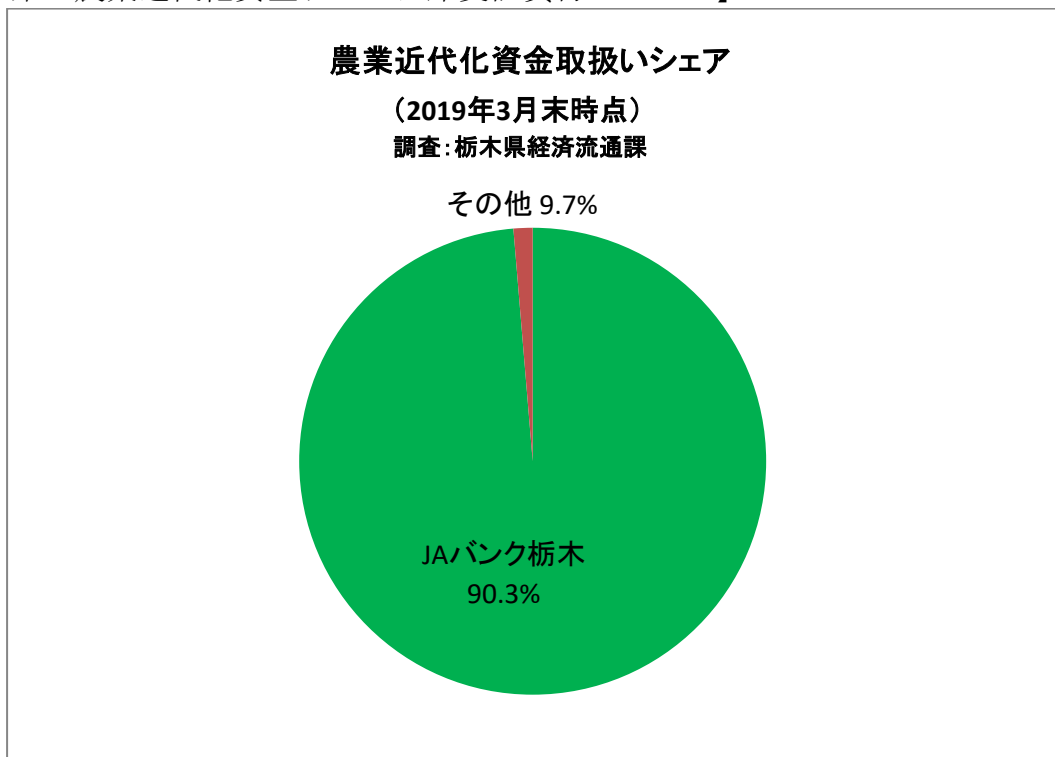
- (注1) プロパー資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- (注2) 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンク栃木が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。
- (注3) その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。
- (注4) 小数点以下を四捨五入しております。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

種 類	2019年3月末現在
日本政策金融公庫資金	7,006

(注) JAバンク栃木では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

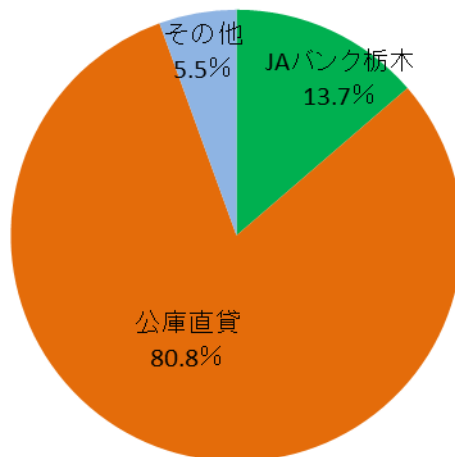
JAバンク栃木は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【栃木県の農業近代化資金および公庫受託貸付のシェア】


日本政策金融公庫農業資金取扱いシェア

(2019年3月末時点)

出所: 日本政策公庫「業務統計年報」
農林中央金庫「農業融資残高一覧表」



(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク栃木では、地域の農業者との関係を強化・深耕するための体制整備に取り組んでいます。

JAの農業融資担当者は、営農相談・経済担当者と連携して農業者からお聞きした情報を把握して、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、県内10JAには56人の「担い手金融リーダー」が設置され、これらの活動をサポートしています。

農林中央金庫宇都宮支店では、JAの活動サポートや指導機能、農業法人等への融資相談機能を有し、これらの機能拡充、強化に向けて取り組んでおります。

(3) JA内事業間連携の強化

JAバンク栃木では、農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業担当者との合同会議や研修会の開催に加え、農業者への同行訪問等を行うことにより、JA内事業間連携を強化しています。

【具体的取組事例】

a JAバンク栃木担い手金融リーダー会議

開催日	2019年2月22日
主催者	農林中央金庫宇都宮支店
参加対象者	JA役職員
参加人数	60名
内容	<p>農家支援の取組強化を図ることを目的に、農業融資担当者および営農・経済渉外担当者を参集しました。会議では、栃木県より「農業制度資金融資状況等の情勢」、日本政策金融公庫より「公庫と民間金融機関の連携」等についてご説明をいただきました。また、「第14回JAバンク担い手金融リーダー全国大会」に参加したJAはが野・JAなすのの担当者より、同大会のフィードバックと自らのJAにおける事業間連携の強化策等について報告をいただきました。</p> <p>講演では税理士法人小林会計代表社員税理士の小林恒夫氏より「税制改正のポイントおよび事業承継について」と題して、改正消費税への対応や2019年度税制改正のポイント、事業承継税制の拡充について講演していただき、税務相談や事業承継の支援など担い手対応力強化を目的に、知識の習得を図りました。</p>



b 第19回パワフルアグリフェアの開催

開 催 日	2018年7月21、22日
主 催 者	JAグループ栃木
総 来 場 者 数	県内外より6,980名
内 容	パワフルアグリフェア（JAグループ栃木農業機械等統一展示会）に参画し会場内に設置した特設コーナーにおいて、農業資金等のPRおよび借入相談対応等を実施しました。特に今年度は、農業近代化資金の保証料助成制度にスポットを当て、チラシの配布やポスター掲示により、本制度の周知に努めました。さらに、全農栃木県本部と連携して、目玉商品であるJAグループ共同購入トラクターの紹介ブースにおいて、農業近代化資金のPRを行いました。



2 担い手への経営支援

JAバンク栃木は、担い手をサポートするため、経営サイクルに応じて、次の取り組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

JAバンク栃木では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、日本政策金融公庫資金「青年等就農資金」を取り扱っています。また、2016年7月にはJAバンク栃木としても新規就農者の様々な資金ニーズに対応すべく「JA新規就農応援資金」を創設しました。

加えて、2016年4月に設立した「JAグループ栃木担い手サポートセンター」や、日本政策金融公庫宇都宮支店、栃木県と連携し新規就農者向けセミナーを開催し、各種情報提供に加え、新規就農者間や関係機関とのネットワークづくりを行っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱実績】

(単位：百万円)

	2019年3月末 残高
青年等就農資金	693
就農支援資金	797
JA新規就農応援資金	61
合計	1,550

【平成30（2018）年度新規就農者応援セミナーの開催】

開催日	2018年7月27日
主催者	JAバンク栃木、JAグループ栃木担い手サポートセンター、株式会社日本政策金融公庫宇都宮支店
参加人数	117名
内容	<p>栃木県（各農業振興事務所）との協力のもと、県内で新規就農を資金面・制度面で支える機関・団体が集結し、県内各地から新規就農者ならびに県農大生を含む新規就農者を志す研修生ら計120人程度が参加しセミナーを開催いたしました。</p> <p>セミナーでは各関係機関より融資商品や補助事業等の情報提供を行った後、阿部梨園マネージャーの佐川友彦氏より「農家の参謀が語る！未来のための経営改善」と題しご講演をいただきました。ご自身の体験談やIT機器を活用する経営改善のコツを紹介していただきました。</p> <p>セミナー終了後は意見交換会も開催し、参加者同士での情報交換をはじめ、お互いの圃場見学の約束など、積極的に「つながり」を広げていました。</p>

(2) 経営不振農家の経営改善支援

JAバンク栃木では、負債整理資金の対応にあたり、関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取り組んでいます。

【2018年度の農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先数)

		期初経営改善支援取組先			再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
		Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c		
正常先①		53	5	45	9.4%	
要注意先	うちその他要注意先②	47	5	3	10.6%	6.4%
	うち要管理先③				0.0%	0.0%
破綻懸念先④		27	12	1	44.4%	3.7%
実質破綻先⑤		11	1	1	9.1%	9.1%
破綻先⑥					0.0%	0.0%
小計(②～⑥の計)		85	18	5	21.2%	5.9%
合計		138	23	5	16.7%	3.6%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は2018年2月末時点でのものです。

(3) 災害被災者への支援

JAバンク栃木では、自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

(4) JAバンク栃木講演会・セミナー等の開催

JAバンク栃木および栃木県農業法人協会主催により、農業法人経営者や系統団体等を招いたセミナーを開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【具体的取組事例】

セミナー名	平成30(2018)年度 栃木県農業経営セミナー
開催日	2019年2月27日
主催者	JAバンク栃木、栃木県農業法人協会
参加対象者	農業法人経営者、JA役職員、行政、関係団体等
参加人数	108名
内容	<p>◆第一部 ①「食と農の美しいつなぎかたー農業者を強くするマーケティング」 講師 静岡県立大学 経営情報学部 教授 岩崎 邦彦 氏</p> <p>◆第二部 ②「ウイスキーセミナー」 講師 サントリーモルティング株式会社</p> <p>◆第三部 ③交流会</p>



3 経営の将来性を見極める融資手法を活用した担い手に適した資金提供

JAバンク栃木では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金による経営支援

JAバンク栃木では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【2018年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	2018年度 実行件数	2018年度 実行金額	2019年3月末 残高
農業経営負担軽減支援資金（注1）	0	0	0
畜産特別資金（注2）	0	0	103
その他（注3）	1	4	214
合計	1	4	317

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の軽減を図るための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注3) その他資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の軽減を図るためのJAプロパー資金の総計です。

(2) 動産担保を活用した農業融資の活用

JAバンク栃木では、栃木県で盛んな酪農業・畜産業を営む農業者に必要な運転資金を提供するため、「ABL対応型資金」を2017年度に創設しております。

ABLとは酪農業・畜産業における商品在庫（牛や豚）を担保とすることで、不動産担保や個人保証に依存しない融資が可能となる手法です。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク栃木は、地域の子どもたちに農業への理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する補助教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験の受入れ等に取り組んでいます。

「農業とわたしたちの暮らし」は、JAを通じて、県内約 350 の小学校へ約 20,000 冊配布され、授業等において活用されています。

また、JAでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAうつのみや	農業体験教室 (アグリスクール)	小学生を対象に、野菜の収穫体験や稲刈りの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAかみつが	農業体験学習	小学生を対象に、学校農園で農作物づくりの農業体験や稲刈りを通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAはが野	農業体験教室 (未来ちゃんクラブ)	小学生を対象に、JA管内(真岡・二宮・益子・茂木・市貝・芳賀)ごとに、それぞれの地域の特色を持った農業体験を行いました。
JAしもつけ	農業体験学習	小学生を対象に田植え・稲刈りの農業体験や、野菜の収穫体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAおやま	農業体験学習	小学生を対象に管内産の食材を使った親子クッキングを実施し、農業や食料への関心を深める取り組みを行いました。
JA佐野	農業体験教室 (あぐりスクール「夢」)	小学生を対象に田植え、野菜の定植・収穫体験や地元の野菜を使った料理教室を通じて、農業への関心を高める取り組みを行いました。
JA足利	農業体験教室 (あぐりキッズクラブ)	小・中学生を対象に、味噌作りや収穫した米や野菜を使用した調理体験を通じて食農教育活動を行いました。
JAしおのや	農業体験学習	園児・小学生を対象にサツマイモの定植・収穫やバケツの稲づくりの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAなすの	農業体験教室 (なっちゃんクラブ)	小学生を対象に、農作物(大根、そば等)の種まきから収穫、調理して食べるまでの農業体験や調理実習を行いました。
JAなす南	地元産とちぎ和牛学校給食	園児・小中学生を対象に、食育に関する学習・体験を実施しました。また、地産地消の取組みとして「とちぎ和牛」の学校給食への提供を行いました。

以上